

3 どんな治療法がありますか？

担当医とよく相談して決めましょう。いくつかの治療法について簡単に説明して「次回の外来までにどれにするか決めて下さい」と言われることもあります。しかし、患者にとっては「どうしたらいいかわからない」のは当然なのです。「がん相談」などでアドバイスを受けながら、自分の病状を示すデータや診察の際のメモなどを基に、納得できるまで医師らの話を聞き、質問し、家族とも話し合ひましょう。判断に迷った時は、セカンドオピニオンを利用する方法もあります。

手術は、手術後の痛みや生活する上での不自由、ホルモンバランスの変化、声が出にくくなる、リンパ浮腫が出る、手術痕など様々な問題が残る場合もあり、治療法の決定前から、これらの点を踏まえる必要があります。手術後も継続的な治療、検査は重要です。

◆放射線・薬物療法

がんの一部は、放射線治療や薬物療法で完治します。手術の前後に、放射線治療や薬物療法を補助的に使い、完治する可能性を高める場合もあります。また、治癒は望めない場合の延命の手段や疼痛を和らげるためにこれらの治療法が用いられています。

◆セカンドオピニオン

診断や治療法について、担当医以外の医師の意見を聞き参考にすることは、決して担当医との信頼関係を損なう行為ではありません。自分が十分に納得して治療に取り組むために必要であれば、担当医に率直にその意思を伝えることです。がん診療連携拠点病院の相談支援センターではセカンドオピニオンの受け方の相談のほか、対応する医師の紹介をしているところもあります。担当医から十分なデータを受け取ってから相談すると、よりよいアドバイスが得られます。